様式２

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名　鳥取県立鳥取東高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	令和３年　５月　７日

１　学校目標

さまざまな教育活動を通して、２１世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める
１ 自分の将来をはっきりと思い描き、その目標に向かって努力する主体性を育成する
２ 社会のどこかを支える人間、一隅を照らす人に育てる
３ 他者を思いやる優しさ(親和)、困難に立ち向かう逞しさ(克己)、探究しようとする積極性(進取)を育成する

２　重点項目に係る目標・成果

目標	成果
・将来の夢が語れ、高い志を持って自己の将来像を設計し、実現に向けて主体的に努力する力を育成する。 ・大学入学共通テストや二次試験の研究と対策を進め、生徒の実態や教育課程に対応した学習指導の充実を図る。 ＜数値目標＞ ・国公立大学の現役合格者 140 人（現状 110 人前後）、うち難関大学等合格者 10 人（現状 5 人前後）を目指す。	・就職希望者は全員、希望先への就職ができた。 ・進学希望者は、概ね希望する進学先を受験することができた。二次試験に向けた主体的な努力という点でも、学年全体で気持ちを盛り上げながら受験へ向かうことができた。 ・国公立大学の総合型選抜や学校推薦型選抜を積極的に活用し、難関大学への合格や一般入試では合格が厳しい生徒も合格することができた。 ＜数値結果＞ ・全国模試での校内平均点偏差値は、年間を通じた平均が、1・2 年生は 50～51、３年生は 49 であった。 ・国公立大学の現役合格者は 169 人。うち難関大学合格者は７名であった。

３　実施事業

【高等学校課事業】
・鳥取県版キャリア教育推進事業　「ようこそ高校へ」版キャリア塾
　…各学年の生徒に対して、進路意識やキャリア意識を高めるため外部講師を招いて講演をいただいた。
　１年生　７月１６日　文理選択に関わる講演会（ベネッセ・大竹裕貴 氏）
　３年生　６月１０日　新型コロナ感染拡大防止のため、中止

【独自事業】
・教科指導力向上事業
　…難関大学などへ向かう生徒指導のため、県外予備校への研修や先進校視察などを行う予定であったが、新型コロナ感染拡大のため、中止または Web 参加となった。
　７月上旬　難関大学入試研究会（ベネッセ）　Web セミナー形式で参加
　８月下旬　高大接続研究会（駿台予備校）　中止
　８月下旬　京大・阪大・神戸大入試問題研究会（駿台予備校）　前年度の３月実施予定のものが実施され、Web セミナー形式で参加

１２月上旬　大学入試動向研究会、神戸大学入試対策指導研究会（駿台予備校）Web セミナー形式で参加
１２月下旬　京大・阪大・神戸大入試動向研究会（駿台予備校）　Web セミナー形式で参加
３月下旬　京大・阪大・神戸大入試問題研究会（駿台予備校）　次年度に繰り下げて実施予定
難関大学を志望する生徒の成績状況や志望動向などを踏まえた進路指導を行うことができた。

・鳥取学推進事業
…進路意識を高め、明確にするために１年次では鳥取を題材にして研究・訪問し、２年次では講演会を行った。
１年生は、１２月１０日に鳥取県東部地区を中心に企業・研究所訪問を行った。訪問先で地域課題解決に向けたプレゼンテーションを行い、指導助言をもらう。その後、１月２８日に改良を加えたプレゼンテーションで校内発表会を開催した。
２年生は、２月１０日に県内企業から講師を派遣してもらい、働くことの魅力、就職する意味、高校時代に身につけたい力とは、など多岐にわたる講演をしていただいた。

・学部・学科別講演会（９月１０日）
…２年生を対象に、岡山大学（文・法・環境理工学部）、鳥取大学（工・農学部）、島根大学（法文・教育・総合理工学部）、鳥取環境大学（経営学部）、鳥取看護大学（看護学部）より講師を派遣してもらい、学部紹介・研究紹介をしていただいた。２部制とし、生徒は２学部の講演を聴くことができた。自分の希望する学部内容を知る機会となり、オープンキャンパスへの参加促進、進路志望の再確認とすることができた。

【その他】
・スタディーサプリ（リクルート）の導入（２・３年）
…新型コロナ感染拡大を機に、生徒個々に個別最適化された学習方法の模索と活用方法の検討を行った。

4　総合所見（成果・評価）

・１年生の文理選択時期に講演会を開催することで、生徒の進路意識の向上と自分自身の進路目標を再確認するよい刺激となった。３年生に対しては、残念ながら新型コロナ感染拡大防止のため、実施することができなかった。
・鳥取学推進事業では、「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」へ変わったことを踏まえ、探究的な要素を取り入れて実施した。今までに本校に蓄積されてきたものをもとに、新たな取り組みも取り入れながらブラッシュアップしていきたい。
・就職希望者への指導は、前年度末から徐々にスタートすることで、年度当初から高い意識を持って就職へ向けての取り組みができた。そして、全員希望する就職先に就職することができた。
・進学希望者は、前年度より国公立大学の合格者数は 140 名から 169 名と大きく増加した。大学入学共通テストへの変化など、大きく変化する入試制度の中、最後まで諦めず粘り強く受験に向かうことの大切さを生徒へ伝えられたことと、教員が最後まで小論文指導や面接指導をすることで、生徒に受験に耐えうる力を付けて受験へ向かわせることができた。また、難関大学への合格者も前年度の 1 名から 7 名へと大きく増加した。目標とする 10 名には届かなかったが、難関大学の受験者は 15 名あり、成果は着実に出てきていると感じる。
・入試へ向けての準備として、１年生からの継続的なポートフォリオの蓄積は必要であると感じている。そのため、生徒へその意義を伝えつつ、蓄積していけるように指導する必要がある。

※枚数任意